

B. 現在形

1. 直説法現在とは

細江博士は言語に表す世界は 具象の世界と心の世界との二つであるとし、まず、細江博士の暫定的な分類をみてみよう。『動詞叙法の研究』(昭和8年、泰文堂 P.42)において

“ Present Tense ” = 『直感直叙』の語形

“ Present Perfect ” = 『確認確述』の語形

“ Past Tense ” = 『回想叙述』の語形

“ Future Tense ” = 『想像(推測)叙述』の語形

とした。また、『動詞叙法の研究』P.3-P.5の「二つの世界」によれば、言語に表す世界は 具象の世界と心の世界との二つであり、直説法現在は具象の世界を表すものであり、直接的に時を表すものではないとした。

吾々は生を具象の世界に営み、己の感覚に訴へてその中に現はるゝ諸の事象を
観、必要に感じてその観るところを言語に写して発表する。(具象の世界)

Dogs run. (犬が走る)

Stars twinkle. (星がまたたく)

Those grapes are ripe. (あの葡萄は熟して居る)

これをふまえ、先に述べたことを繰り返すが、“ Present Tense ” = 『直感直叙』“ Present Perfect ” = 『確認確述』とはなんなのか、拙者は現在形すなわち『直感直叙』を
現在生きている我々のBODYの外界にある自身が接している環境世界の事象や扱える事実定理・法則を表現するもの

と定義し、いわゆる現在形の劇的現在用法に臨場感効果が期待されるのはこうしたことからだと考える。特に完了相すなわち『確認確述』については日本語の口語で表現すると

「……したんだあ...(それでね...)」

あるいは

「……があったんだあ...(それでね...)」

というように話の次の展開につなげるものであり時制というよりは相であろうと考える。

a. 単純現在 環境に起こっている生(なま)の事象の表現

b. 普遍の真理 我々が利用したりできる真理の提示

c. 劇的現在 単純現在の生(LIVE)感覚を利用した臨場感効果の表現